

主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

理 由

弁護人園田寛の上告趣意は、原審で主張判断なく且つ単なる法令違反の主張であつて、適法な上告理由に当たらない。のみならず所論の点につき職権をもつて調査しても、第一審の認定した「……酒精分一度の焼酎原料醪……を製造したもの」である以上、所論蒸餾機を没収し得ることは酒税法六〇条四項（本件当時に適用ある同法同条同項）の規定に合致するものと解するを相当とする。また所論「等」の判示は、本件没収物件の複数であることの意味であつて、掲記以外の物件を没収する趣旨でないことは勿論である。所論はすべて採ることができない。

なお記録を調べても本件につき刑訴四―一条を適用すべき事由を認められない。

よつて同四―四条、三八六条一項三号、一八―一条により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和三〇年―二月二―日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	栗	山	茂
裁判官	小	谷	勝 重
裁判官	藤	田	八 郎
裁判官	谷	村	唯 一 郎
裁判官	池	田	克